

上里遺跡群（晴山遺跡第 49 次調査）現地公開資料

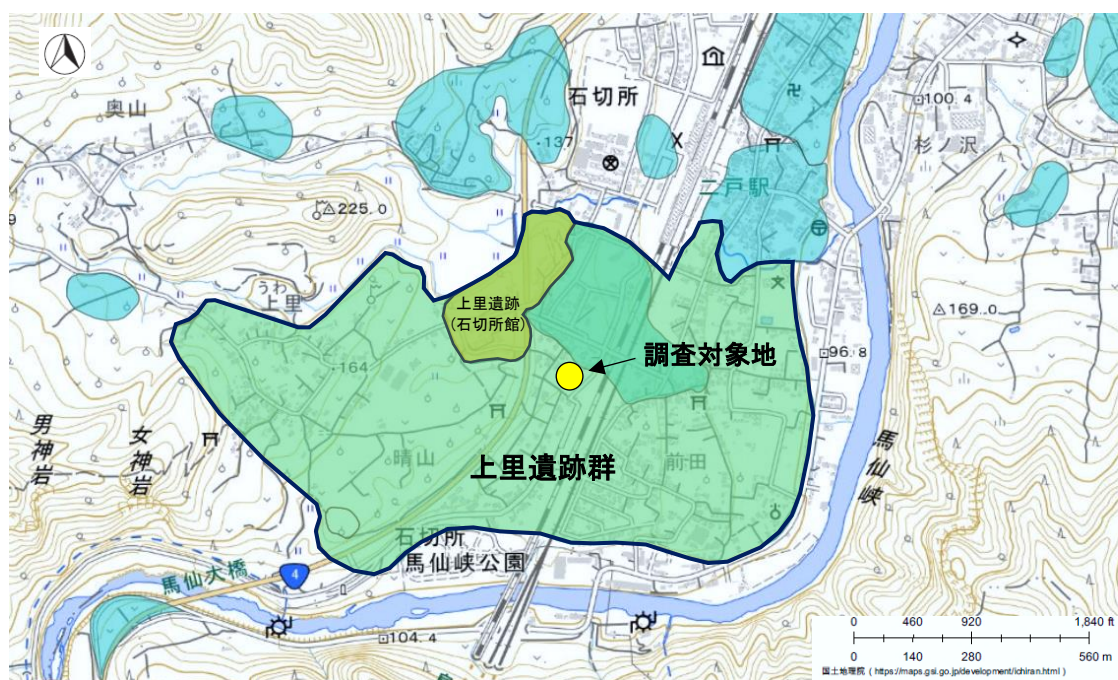
日時：令和 5 年 6 月 9 日（金）

所在地	二戸市石切所字晴山地内
調査原因	土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査
調査期間	令和 5 年 4 月 24 日～6 月 30 日（予定）
調査機関	二戸市埋蔵文化財センター
調査面積	1,035.0 m ²
主な時代	縄文時代
主な遺構	柱穴、自然流路、不明遺構
主な遺物	縄文土器、石器

① 遺跡の説明

晴山遺跡は上里遺跡群の一部で、石切所字晴山地内に所在します。二戸駅の南西に位置し、遺跡の西側は名勝馬仙峡の男神岩、女神岩、鳥越山を望みます。晴山遺跡は新幹線二戸駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査が継続して行われており、縄文時代～弥生時代初頭、古代、中世、近世の複合遺跡であることが分かっています。

近年の調査では、中世の堀跡とともに、晴山遺跡の上位段丘に所在する上里遺跡（石切所館）から続く自然流路が確認され、縄文時代中期を中心とした遺物が多量に出土しています。上里遺跡群は晴山遺跡のほかに上里遺跡、諏訪前遺跡、大淵遺跡、荒瀬遺跡、大坊平遺跡などで発掘調査が行われ、長い期間集落として使われていたことが分かっています。



遺跡分布図（いわて遺跡地図より）

② 調査の成果

晴山遺跡は令和5年度までに第49次調査が実施されています。今回の調査では、自然流路2条と近現代の柱穴、不明遺構が確認されました。

自然流路（SD01）は調査区を北西から南東に向かって蛇行し、規模は幅が4.0～7.0m、深さが0.6～1.0mです。検出時には砂が堆積する地層が確認され、多量の縄文土器が出土しています。検出面や地山の土は鉄分を多く含んで硬化し、流路の床面は粘土質で、水分を含み変質していました。令和4年度に実施した第47次調査では、SD01から続く自然流路が確認されており、今回と同様に流路内からは縄文土器が多量に出土しました。

自然流路（SD02）は調査区を西から東に向かって蛇行し、規模は幅が4.2～4.8m、深さが0.7～0.8mです。調査区の北西壁際あたりでSD01と合流しますが、新旧関係を確認したところ、SD02の方がSD01よりも新しいことが分かりました。検出時にはSD01と同様に砂層が確認され、多量の縄文土器や石鏃・磨石などの石器類が出土したほか、検出面や地山の土は鉄分を含んで硬化していました。令和4年度に実施した第48次調査では、SD02に続く自然流路が確認されています。

自然流路のほかには、近現代のものと思われる柱穴5個（pit1～5）と時期不明の遺構（SX01）が確認されました。

③ まとめ

今回の調査では、自然流路2条と近現代の柱穴、不明遺構が確認されました。自然流路からは多量の縄文土器、石器類が出土しました。縄文土器は大部分が縄文時代中期前葉の土器ですが、中期後葉と思われる土器も見られ、2つの時期が主体となっていたものと思われます。

本調査区の地形は西から東に向かって下がる傾斜地であり、晴山遺跡の北西上位段丘には、上里遺跡（石切所館）が所在します。平成29年度の上里遺跡の発掘調査では、縄文時代前期前葉と想定される竪穴住居跡のほか、中期後葉の遺物包含層が確認されました。また、昭和54年度の調査でも同様に2時期の出土状況が報告されており、晴山遺跡の時期と一致します。このことから、晴山遺跡出土の縄文土器は、上里遺跡から自然流路によって流れ込んだと考えられます。

今後は周辺遺跡との関係性や出土遺物の比較をしながら、一体的な検討を行っていきたいと思います。



縄文時代中期前葉の土器



縄文時代中期後葉の土器